

第4章 誰もが暮らしやすい生活環境の形成の検討

4. 誰もが暮らしやすい生活環境の形成の検討

ここでは、誰もが暮らしやすい生活環境の形成を目指して、「子育て世代」、「外国人」及び「高齢者」を対象とした暮らしやすさのモデルを検討した。

4.1. 既往調査の整理

4.1.1. 子育て環境について

少子化の状況について、「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」（国立社会保障・人口問題研究所）で全国的な年齢別人口の動態を見ると、年少人口の全国的な減少、自治体別では、平成17年比4割以上の減少を示す自治体が7割を超えることが指摘されている。

そのような少子化の進展の中で、国では、人口減少、とりわけ労働力人口の急速な減少に対応し、我が国の経済社会の維持的な発展を図るためには、就労と出産・子育ての二者択一構造の解消という点に戦略的な対応が必要であるとの認識のもと、「働き方の見直しによる仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現」及びその社会基盤となる「包括的な次世代育成支援の枠組みの構築」について、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略を取りまとめ、国全体で少子化対策を進めている。

北陸4県の推計人口を見ると、全国と同様、4県とも年少人口が減少傾向を示しており、概ね各県とも4～5割程度の減少が予想されている。

表 4-1 将来の年齢別人口及び平成47年（2035年）の指数
（平成17年＝100とした場合）

県	年少人口(千人)			生産年齢人口(人)			老年人口(人)		
	H17	H47	指数	H17	H47	指数	H17	H47	指数
富山県	150	83	55.3	704	480	68.3	259	317	122.4
石川県	166	94	56.3	762	535	70.3	246	331	134.6
福井県	121	75	61.7	515	371	72.1	186	230	123.8
新潟県	331	179	54.2	1,515	1,008	66.4	582	687	118.0

【出典】日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）

このような少子化の進展の中で、全国に先駆けた取組など、4県では、少子化対策として、子育て支援に積極的に取り組んでいる。

4県で行われている「子育てしやすい環境整備」に関する取組について各県の総合計画等に基づき整理し、対象とする課題ごとに実施状況の把握を行った。4県の施策実施状況から充実すべき対策課題として以下のとおり抽出し、整理を行った。

(1) 本調査で対象とした既往アンケート調査

国や4県で実施された既往アンケート調査より、子育て支援等について、整理を行った。

その結果、4県での調査結果を見ると、子育てに関する教育をはじめとする経済的支援、事業者も含めた子育て支援サービスの充実、女性の就業率や共働き世帯比率の高さを背景に、仕事と家庭の両立に向けたワーク・ライフ・バランスの推進が求められており、各県で取り組まれる子育て支援施策の柱と同様の結果を示した。

また、新潟県における新幹線開通による通勤流動の広域化が、北陸新幹線開通でも予想される中で、市町村や県の枠を越えた広域的な子育て支援策の展開も今後必要になると考えられる。

なお、以下に参考としたアンケート調査を示す。

1) 「少子化社会対策の在り方に関する有識者アンケート調査」

平成16年1月、内閣府が実施したもので、少子化問題に対する基本認識や関連施策の在り方等について、有識者等から意見を聴取することを目的としている。回答者の属性は以下のとおりである。

(1) 性別：	男性	396人 (65.7%)	女性	203人 (33.7%)	(3) 職業：			
			無回答	4人 (0.7%)	研究者	239人 (39.6%)	女性団体関係者	71人 (11.8%)
(2) 年齢：	29歳以下	3人 (0.5%)	60～69歳	170人 (28.2%)	企業経営者等	53人 (8.8%)	子育て団体関係者	76人 (12.6%)
	30～39歳	34人 (5.6%)	70歳以上	53人 (8.8%)	労働団体関係者	71人 (11.8%)	その他	43人 (7.1%)
	40～49歳	131人 (21.7%)	無回答	12人 (2.0%)	マスコミ関係者	49人 (8.1%)	無回答	1人 (0.2%)
	50～59歳	200人 (33.2%)						

図4-1 「少子化社会対策の在り方に関する有識者アンケート調査」の回答者属性

2) 「富山県県政世論調査 20年度調査結果」

県民生活、県の施策など、県民の基本的な意識を調査し、今後の施策立案の参考資料とすることを目的として実施された調査である。

「富山県県政世論調査 20年度調査結果」調査概要

調査期間：平成20年8月10日～平成20年8月31日

調査対象：富山県内在住の満20歳以上の男女（サンプル数1,200）

調査方法：委託業者の調査員による個別面接調査

回答数：904件（回収率75.3%）

3) 「子育て支援に関する県民調査」(富山県)

県内の未就学児の保護者を対象として実施された調査である。

「子育て支援に関する県民調査」調査概要

調査期間 : 平成 19 年 8 月 ~ 平成 19 年 9 月

調査対象 : 富山県内の未就学児の保護者

回 答 数 : 809件

4) 「子育てに関する WEB アンケート」(石川県)

平成 19 年 1 月、石川県による下記内容で実施された WEB アンケートである。

いしかわネットでアンケート「子育てについて」調査概要

調査期間 : 平成 19 年 1 月 1 日 ~ 平成 19 年 1 月 31 日

調査対象 : 石川県統計指標ランド閲覧者(特に指定なし)

回 答 数 : 120件

- 子育て経験有りの方にお聞きします。あなたが子育てについて抱いているイメージは何ですか？
- 子育て経験無しの方にお聞きします。あなたが子育てについて抱いているイメージは何ですか？
- 子育て経験有りの方にお聞きします。あなたはどこまで子育てに参加しましたか？
- 子育て経験無しの方にお聞きします。あなたにとってはどこまでが子育てにあたりますか？
- 子育て経験有りの方にお聞きします。あなたにとってはどれぐらいの期間が子育てにあたりますか？
- 子育て経験無しの方にお聞きします。あなたにとってはどれぐらいの期間が子育てにあたりますか？
- 子育て経験有りの方にお聞きします。あなたにとって子育て中大変と思うことは何ですか？
- 子育て経験無しの方にお聞きします。あなたにとって子育て中大変と思われるのは何ですか？
- 石川県の行っている育児支援制度「プレミアム・パスポート事業」を知っていますか？

5) 「石川県の住みやすさ～石川県民意識調査結果～」(石川県)

平成 18 年 8 月から 9 月にかけて、「石川県新長期構想」の改定にあたり、県民の意識を反映させるために実施された調査である。

「石川県の住みやすさ～石川県民意識調査結果～」概要

調査期間 : 平成 18 年 8 月～平成 18 年 9 月
調査対象 : 石川県全域 20 歳以上の男女 4,000 人
調査方法 : 郵送法
回 答 数 : 1,933件 (回収率 約48%)

6) 「福井の暮らしをより良くするためのアンケート」(福井県)

「新元気宣言」で掲げた「暮らしの質」の向上を実感できるよう、施策の充実化に向けて、県民一人ひとりの満足や希望を把握することを目的として実施されたアンケート調査である。

「福井の暮らしをより良くするためのアンケート」調査概要

調査期間 : 平成 19 年 11 月 9 日～平成 19 年 11 月 26 日
調査対象 : 福井県内に居住する満 20 歳以上の 5,000 人
調査方法 : 郵送法
回 答 数 : 2,416件 (回収率 48.3%)

7) 「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査 報告書」(新潟県)

「夢おこし」政策プラン推進のために実施された県民意識調査である。

「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査」調査概要

調査期間 : 平成 20 年 11 月 4 日～平成 20 年 11 月 14 日
調査対象 : 新潟県内に居住する 20 歳以上 75 歳以下の男女個人
調査方法 : 調査票の配布・回収とも郵送による自記式アンケート
回 答 数 : 1,233件 (回収率 61.7%)

(2) 既往アンケート等調査から見た特徴

1) 子育て環境の満足度

●子育て環境の満足度

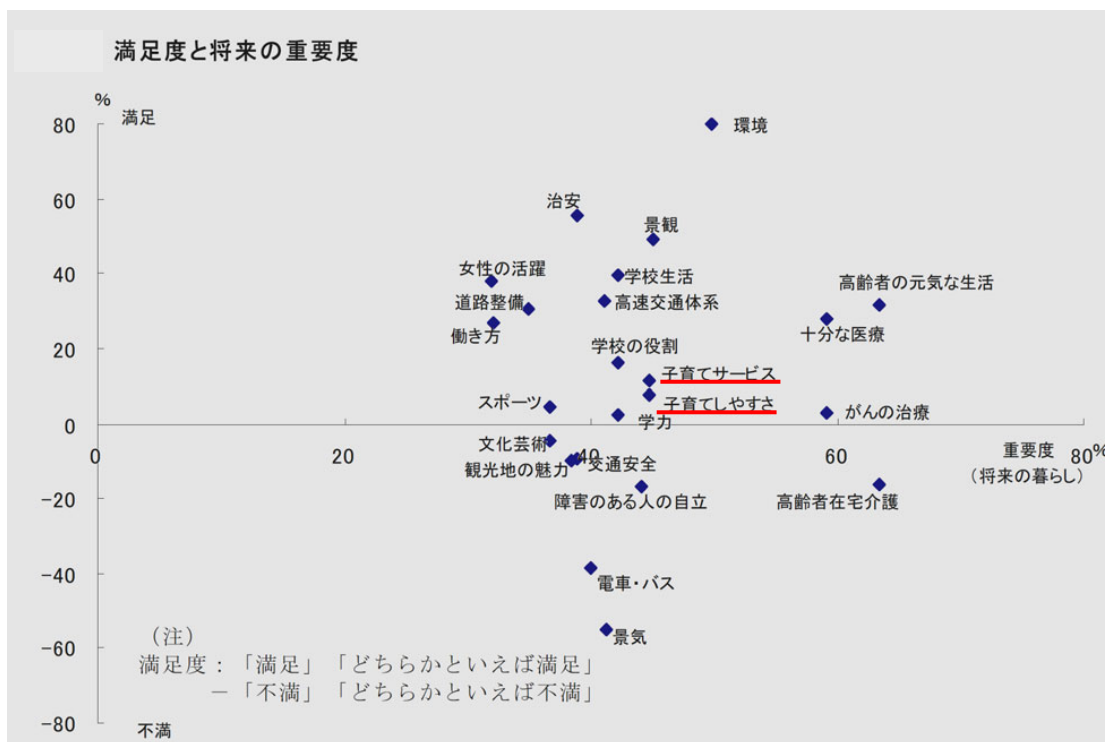
- 「子育てのしやすさ」や「子育て支援サービス」に関する住民の満足度は、決して高くない状況にある。

→ 満足度を高めるためには、後述する子育てに関わる問題点・課題に示す施策などを複合的に、また広域で連携するなどの対策を講じる必要がある。

「福井の暮らしをより良くするためのアンケート」より

○県民生活の満足度と将来の重要度について

- 女性の活躍や働き方、学校の役割や医療といった子育てに関連する項目についての満足度に比べ、子育てサービスや子育てしやすさなど直接的な子育て支援についての満足度は低い。
- 重要度についても、23項目中7、8番目となっており、子育て支援策の強化が求められている。



【出典】「福井の暮らしをより良くするためのアンケート」調査の結果
<http://www.pref.fukui.jp/doc/seiki/anketokeka/anketokeka.html>

図 4-2 県民生活の満足度と将来の重要度

「福井の暮らしをより良くするためのアンケート」より

○県民生活の満足・不満等について

表 4-2 県民生活の満足・不満等

質問項目	満足	不満	改善	悪化
・救急の医療、小児科や身近な「かかりつけ医」など、十分な医療が受けられるようになっていると思いますか。(問 1-2)	59% (8位)	31% (9位)	21% (9位)	10% (11位)
・がんの治療が必要になったとき、安心して十分な医療が受けられるようになっていると思いますか。(問 1-3)	40% (12位)	37% (7位)	27% (5位)	4% (17位)
・高齢者の活動や仲間づくりの場があり、高齢者がいきいきと元気に生活できるようになっていると思いますか。(問 1-5)	58% (9位)	26% (16位)	41% (1位)	4% (17位)
・高齢者が住み慣れた家で家族とともに過ごしなが、必要な介護を受けられるようになっていると思いますか。(問 1-6)	34% (18位)	50% (4位)	25% (6位)	13% (9位)
・障害のある人が働くことや社会参加を通して自立し、地域で安心して暮らせるようになっていると思いますか。(問 1-7)	30% (20位)	46% (6位)	22% (8位)	7% (14位)
・あなたは、現在の仕事(働き方)に満足していますか。(問 2-1)	56% (10位)	29% (14位)	12% (19位)	22% (3位)
・家族の理解や応援など、女性が地域や職場で活躍できるようになっていますか。(問 2-3)	61% (6位)	23% (17位)	33% (3位)	4% (17位)
・絵画や音楽などの文化芸術を鑑賞することに満足していますか。(問 2-6)	29% (21位)	34% (8位)	20% (11位)	4% (17位)
・スポーツを行う機会や施設は足りていますか。(問 2-8)	35% (17位)	31% (9位)	21% (9位)	4% (17位)
・子育てに対する支援サービスは、利用しやすいですか。(問 3-2)	26% (22位)	15% (21位)	24% (7位)	2% (22位)
・経済的な負担が軽い、家族や職場の協力が得やすいなど、福井県は子どもを産み、育てやすいと思いますか。(問 3-3)	38% (16位)	30% (12位)	18% (13位)	5% (15位)
・学校で受けている授業で、子どもたちに十分な学力が身についていますか。(問 3-5)	32% (19位)	30% (12位)	9% (22位)	20% (4位)
・子どもたちの心と体の成長に、学校が十分役割を果たしていますか。(問 3-6)	40% (12位)	23% (18位)	11% (21位)	15% (7位)
・子どもたちは、学校生活を楽しんでいますか。(問 3-7)	50% (11位)	10% (23位)	12% (19位)	8% (13位)
・県内の治安は保たれていますか。(問 4-1)	72% (3位)	16% (20位)	15% (15位)	18% (6位)
・県内の交通の状況は安全(交通ルールが守られ、安心して道路を通行できる状況)ですか。(問 4-2)	42% (12位)	51% (3位)	13% (16位)	24% (2位)
・県内の景気の状況について、どのように感じていますか。(問 6-1)	13% (24位)	68% (1位)	7% (23位)	39% (1位)
・県内の観光地は魅力があると思いますか。(問 6-3)	40% (12位)	50% (4位)	13% (16位)	9% (12位)
・電車、バスなどは利用しやすいですか。(問 7-2)	21% (23位)	60% (2位)	13% (16位)	19% (5位)
・県内の道路は十分整備されていますか。(問 7-3)	62% (5位)	31% (10位)	41% (1位)	5% (15位)
・福井県外へ出かける場合に、現在の高速道路や鉄道などに満足していますか。(問 7-4)	61% (6位)	29% (14位)	29% (4位)	2% (22位)
・福井の海や山、川などの自然環境や、空気や飲み水などの生活環境が豊かで美しいと思いますか。(問 8-1)	88% (1位)	8% (24位)	18% (13位)	14% (8位)
・福井県の景観(農村の風景、まちなみ等)は美しいと思いますか。(問 8-2)	71% (4位)	21% (19位)	19% (12位)	11% (10位)
・あなたは、福井県に住んでよかったですか。(問 9-2)	81% (2位)	11% (22位)	—	—

(注) 満 足・・・「満足している」「どちらかといえば満足している」等の回答の計
 不 満・・・「不満である」「どちらかといえば不満である」等の回答の計
 改 善・・・数年前に比べ「よくなっている」の回答
 悪 化・・・数年前に比べ「悪くなっている」の回答

【出典】「福井の暮らしをより良くするためのアンケート」調査の結果

<http://www.pref.fukui.jp/doc/seiki/anketokeka/anketokeka.html>

「石川県の住みやすさ～石川県民意識調査結果」(石川県)より

○地域別・項目別住み心地度について

- 能登地域における子育て支援施設についての満足度は低いものの、奥能登地域、中能登地域、金沢周辺北部地域において、「住みやすい」と回答した住民の比率がそれぞれ 11.6 ポイント、11.6 ポイント、15.5 ポイント増加している。これは能登地域において空港や周辺道路の整備が進んだこと、金沢外環状道路の一部供用開始など、主に道路整備が進んだことが一因として考えられる。

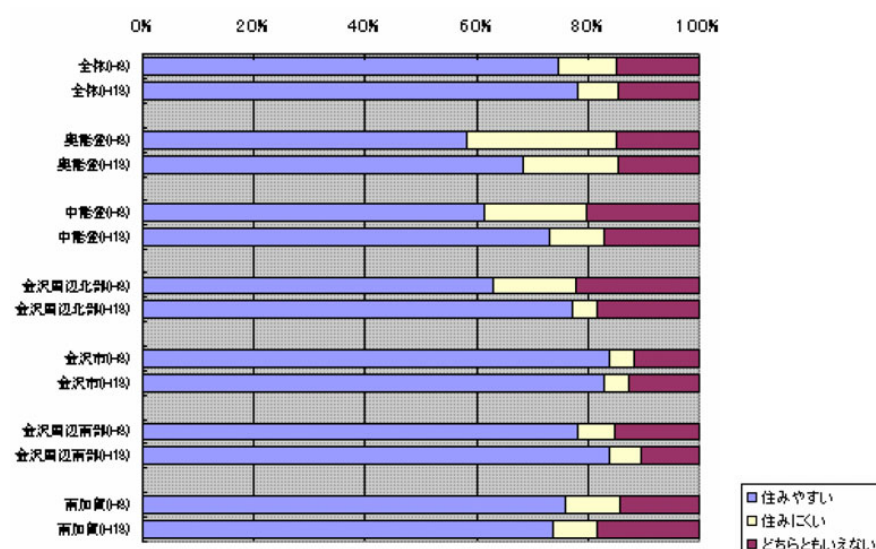
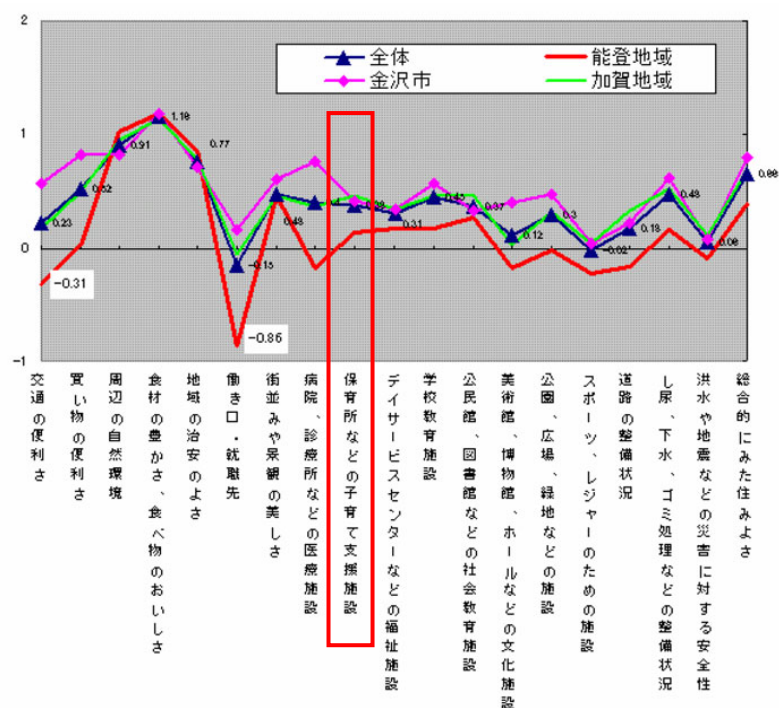


図 4-3 平成 8 年および平成 18 年における地域別住みやすさの比較



【出典】いしかわ統計資料ランド

<http://toukei.pref.ishikawa.jp/topics/0703/0703.html>

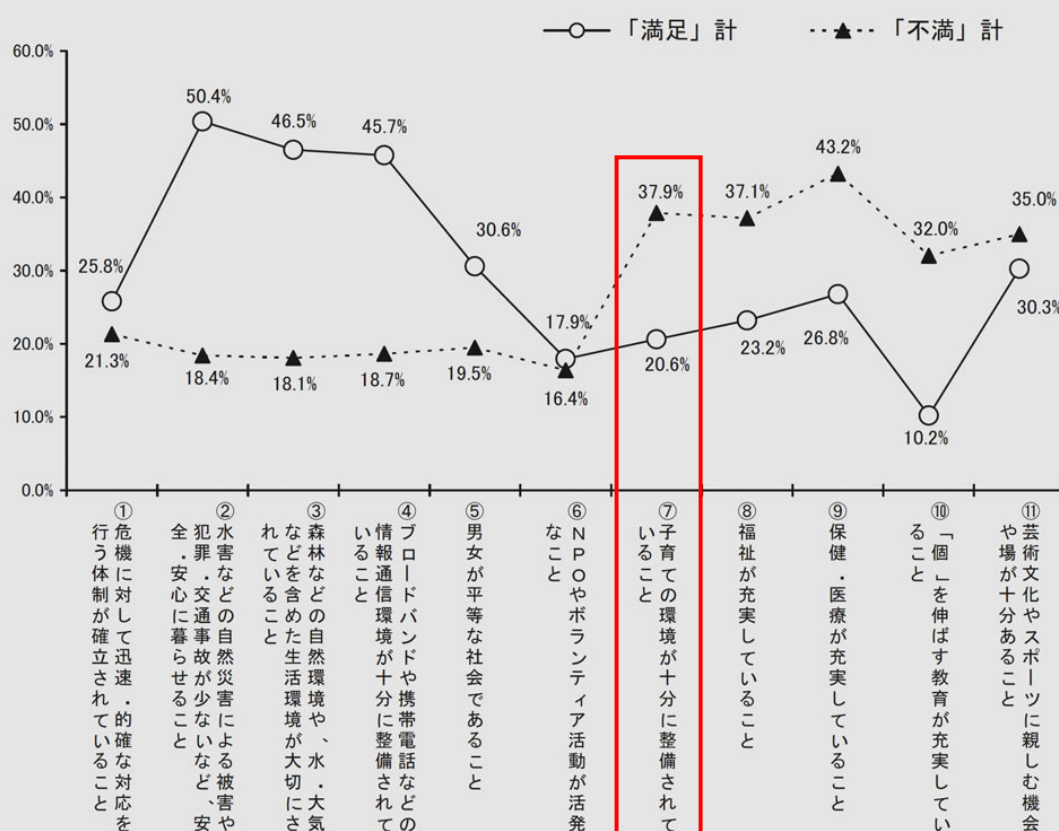
図 4-4 地域別・項目別住み心地度

「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査 報告書」より

○「満足」計と「不満」計の割合（全体結果）について

- ・「満足している」と「ほぼ満足している」を合計した「満足」計の割合を見ると、生活環境についての満足度（2、3、4）が比較的高い中、[7 子育ての環境が十分に整備されていること] は 20.6% ときわめて低い。
- ・また、[7 子育ての環境が十分に整備されていること] は「不満」計において、保健・医療や福祉（9、8）に次いで 37.9% と高い割合となっている。

「満足」計と「不満」計の割合（全体結果）



【出典】「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査」

<http://www.pref.niigata.lg.jp/hyoka/1232049731845.html>

図 4-5 「満足」計と「不満」計の割合

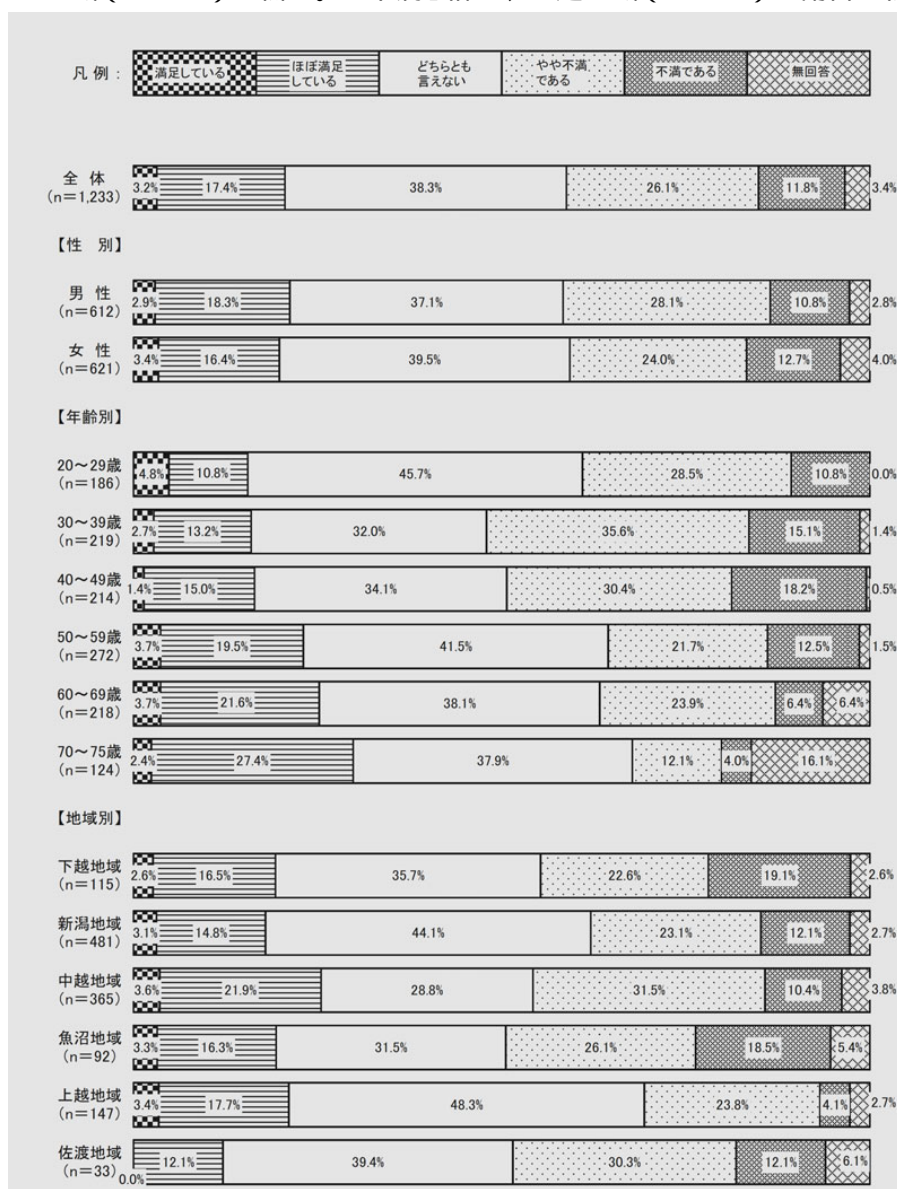
「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査 報告書」より

○子育ての環境が十分に整備されていることについて

- ・「満足している」と「ほぼ満足している」の合計の割合(男性 21.2%、女性 19.8%)も、「不満」計の割合(男性 38.9%、女性 36.7%)も、男女であまり差が見られない。

【年齢別】「満足」計の割合は、20代(15.6%)が最も低く、年齢が上がるほど上昇している。「不満」計の割合は、30代(50.7%)と40代(48.6%)で5割前後と高くなっており、30代以上は年齢が上がるほど低下している。

【地域別】「満足」計の割合は、中越地域(25.5%)が比較的高くなっており、佐渡地域(12.1%)が低い。「不満」計は、上越地域(27.9%)の割合が低い。



【出典】「新潟県「夢おこし」政策プラン推進のための県民意識調査」

<http://www.pref.niigata.lg.jp/hyoka/1232049731845.html>

図 4-6 子育ての環境が十分に整備されていること

2) 子育てに関わる問題点・課題

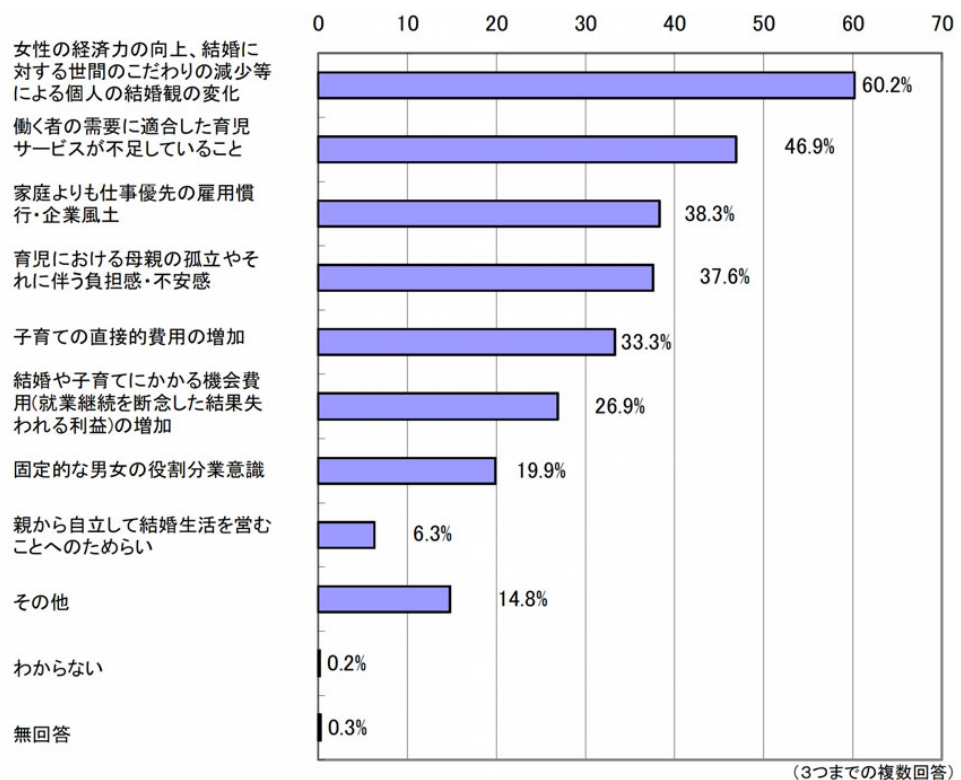
●子育てに関わる問題点・課題

- 既往のアンケート結果を見ると、「再就職・職場復帰」、「子どもの預け入れ」等の意見が上位を占めており、仕事と子育ての両立を希望する人が多いことがうかがえる。
- 「会社等の子育てに対する理解」や「働く者の多様な需要に対応した保育・子育てサービスの充実」などを重点的に実施する必要がある。また、北陸新幹線開通により通勤圏が拡大することを考慮すると、複数の自治体による広域での施策連携やＩＣＴ技術の活用などを視野に入れる必要がある。

「少子化社会対策の在り方に関する有識者アンケート調査」より

○少子化の要因について

- アンケート結果では、少子化の要因として、「女性の経済力の向上、結婚に対する世間のこだわりの減少等による個人の結婚観の変化」が約 60%と最も多くあげられている。次いで、「働く者の需要に適合した育児サービスが不足していること」(約 46%)、「家庭よりも仕事優先の雇用慣行・企業風土」(約 38%)の順となっている。



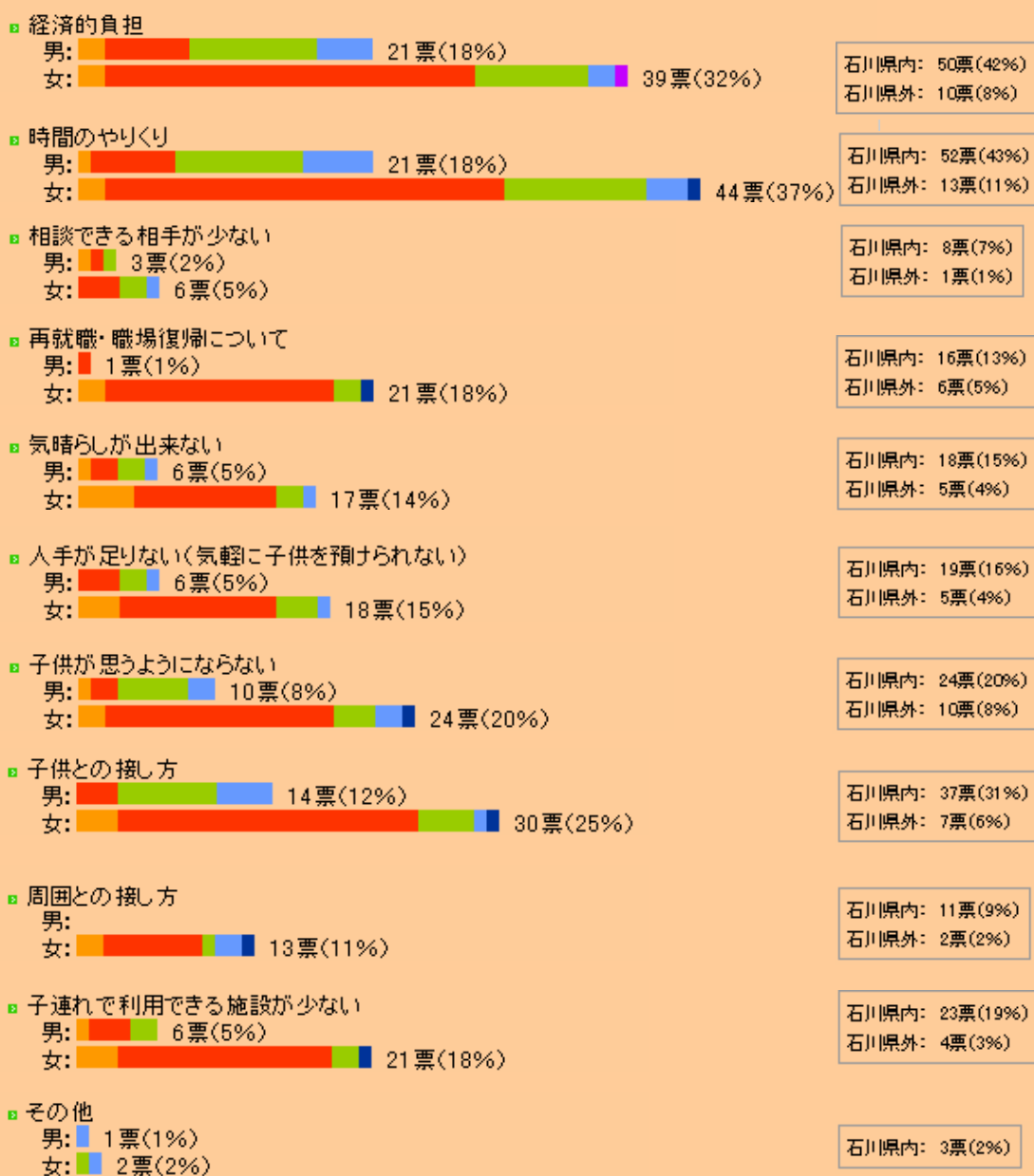
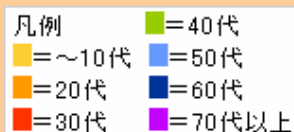
【出典】「少子化社会対策の在り方に関する有識者アンケート調査」
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/kentoukai/k-2/r1enquette.html>

図 4-7 少子化の要因

「子育てに関する WEB アンケート」(石川県)より

○子育て中大変なことについて

子育て経験有りの方にお聞きます。あなたにとって子育て中大変と思うことは何ですか？(あてはまるもの全てにチェックしてください)



回答数 324件

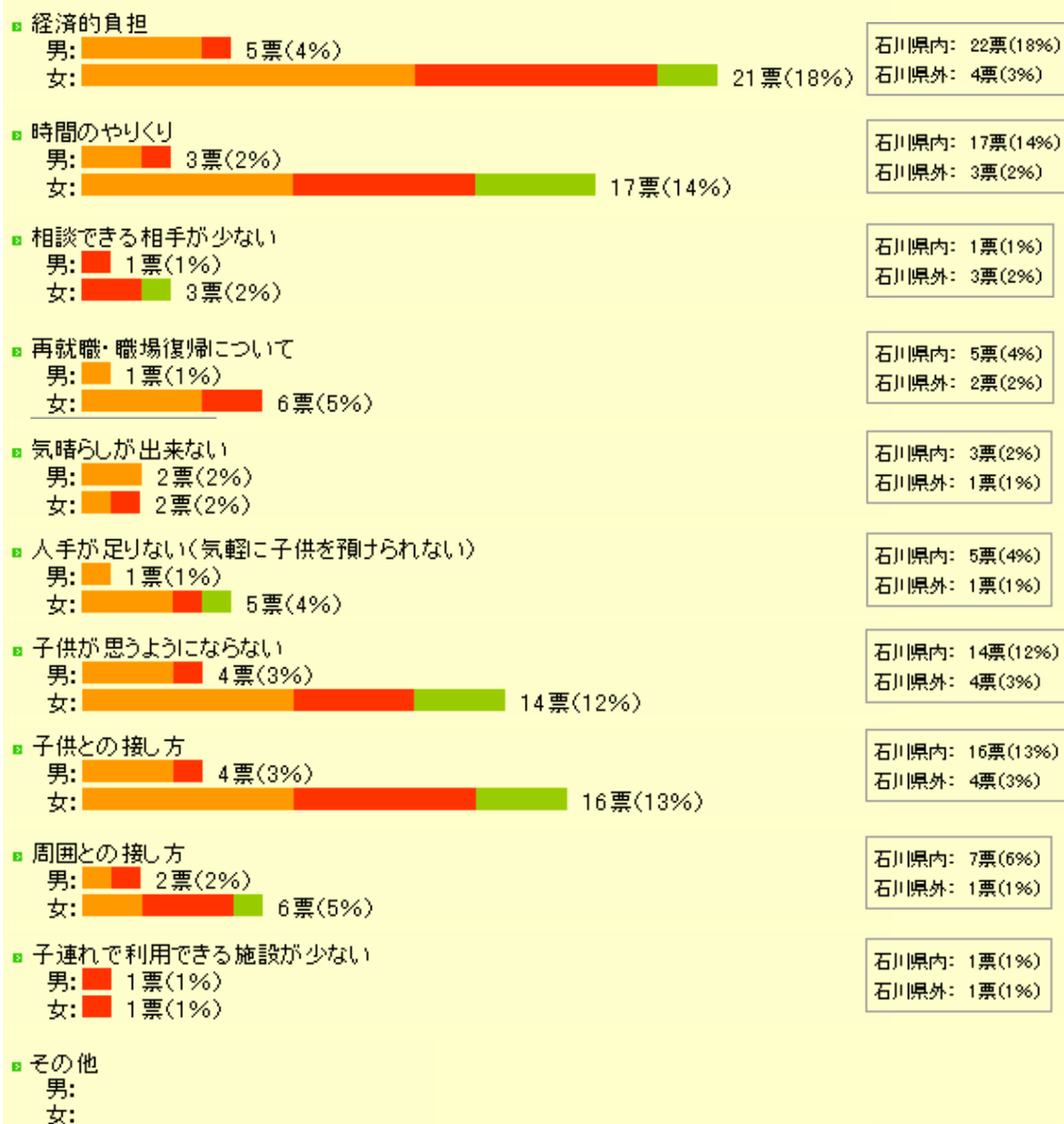
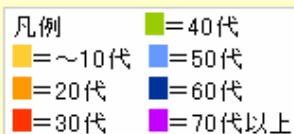
【出典】いしかわ統計指標ランド HP
http://toukei.pref.ishikawa.jp/enquete/result2.asp?id=32&e_page3=3&rep=0&year=2007

図 4-8 子育て中に大変だと思うこと(子育て経験有り)

「子育てに関する WEB アンケート」(石川県)より

○子育て中に大変だと思うこと(子育て経験無し)について

子育て経験無しの方にお聞きます。あなたにとって子育て中大変と思われるのは何ですか？(あてはまるもの全てにチェックしてください)



回答数 115件

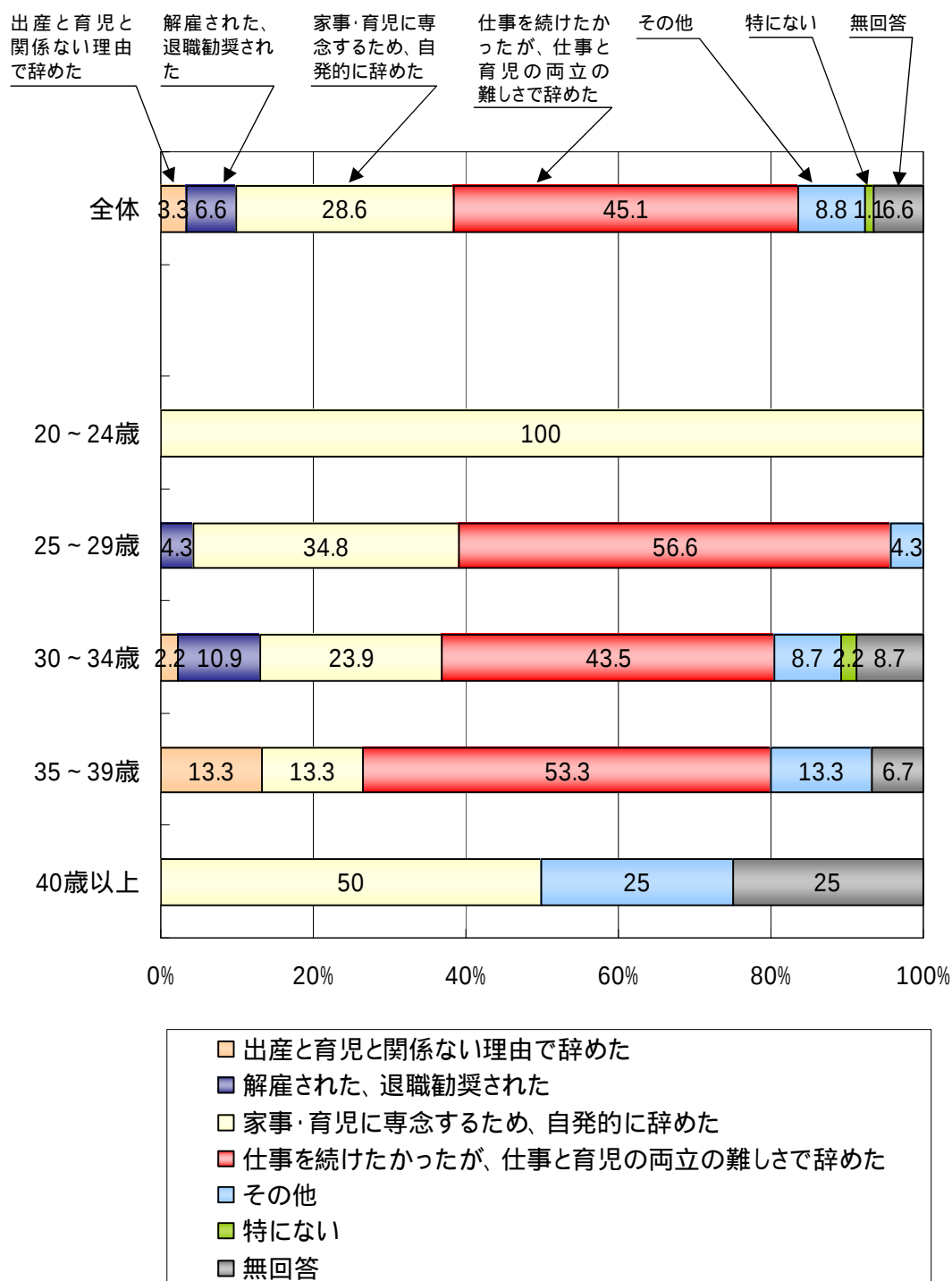
【出典】いしかわ統計指標ランド HP をもとに修正
http://toukei.pref.ishikawa.jp/enquete/result2.asp?id=32&e_page3=3&rep=0&year=2007

図 4-9 子育て中に大変だと思うこと(子育て経験無し)

「富山県少子化対策・子育て支援条例（仮称）に関する意見募集」より

○仕事と子育ての両立について

- 出産後、回答者の約 3 割が仕事（常勤）を辞めている。その理由として、「仕事を続けたかったが、仕事と育児の両立が困難」が約 45%で最も多くなっている。



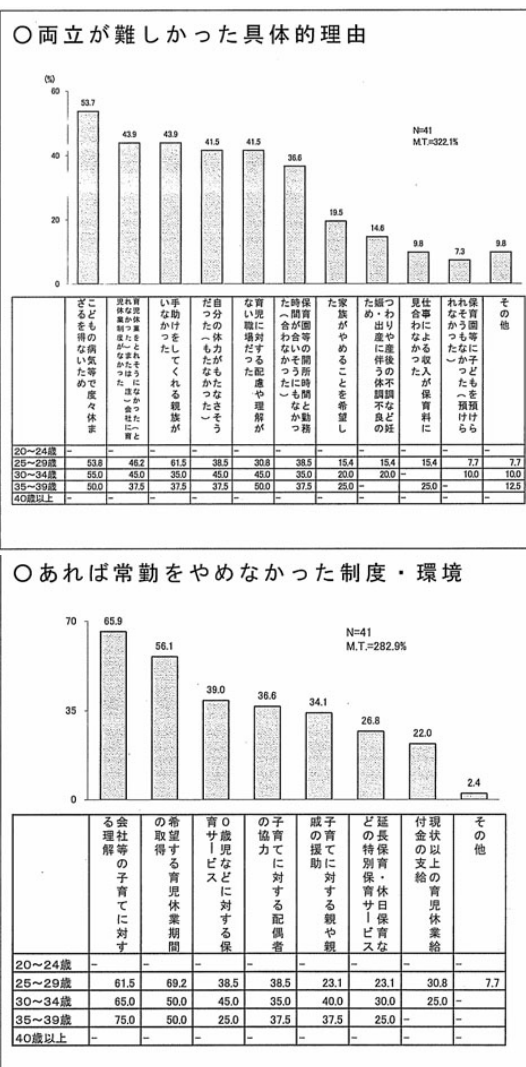
【出典】富山県「富山県少子化対策・子育て支援条例（仮称）に関する意見募集」

図 4-10 仕事と子育ての両立（出産後の常勤を辞めた理由）

「富山県少子化対策・子育て支援条例（仮称）に関する意見募集」より

○仕事と子育ての両立が難しい理由について

- 仕事と子育ての両立が難しい理由をみると、「子どもの病気等で度々休まざるを得ないため」が約 54%と最も多く、次いで「育児休業をとれそうになかった・会社に育児休業制度がなかった」（約 44%）「手助けをしてくれる親族がいなかった」（約 44%）となっている。
- 常勤を継続するために必要な制度・環境としては、企業や行政をはじめ、社会全体での育児サポートの必要性がうかがえる結果となっている。企業・会社に期待するものが上位を占め、「会社等の子育てに対する理解」（約 66%）「希望する育児休業期間の取得」（約 56%）となっている。また行政や民間・住民団体に関わるものとしては、「0 歳児などに対する保育サービス」（約 39%）「延長保育・休日保育などの特別保育サービス」（約 27%）がある。



【出典】富山県 HP「富山県少子化対策・子育て支援条例（仮称）に関する意見募集」

http://www.pref.toyama.jp/cms_cat/404050/kj00007640.html

図 4-11 仕事と子育ての両立（仕事と子育ての両立が難しい理由）